

2016 年 関東ブロック救助隊交流集会 / 深雪搬出訓練 【報告書】

日程： 2月13日（土）、14日（日）

場所： 1日目、白毛門駐車場周辺。2日目、西黒登山道下部。

宿泊： 土合山の家

参加メンバー【5人】： 徳永和也（千葉アルパインクラブ/CL）、神山寿子（千葉アルパインクラブ/SL）、加倉井隆彦（松戸山の会）、小林美智子（岳樺クラブ）、萱野香織（ちば山の会/記録）

天候： 2/13（土）概ね曇り、2/14（日）午前 小雨、午後 曇り。積雪例年より少ない。

2/12（金） 萱野宅から各メンバー宅を順番にピックアップして、その日の宿泊場所である土合駅へ向かう。土合駅へ1：00頃到着する。去年の事があったので、前夜発とした。この時期の関越は渋滞や事故が多いようだ。去年は、事故渋滞が原因で遅刻をしてしまった。今回も朝出の中には渋滞で遅れた人もいたようなので、前夜発がベストだった。

2/13（土） 9：30に土合山の家で参加者の受付をすませる。10：15には身支度を整えた形で、玄関前に集合。今回の主幹の埼玉からの挨拶やオリエンテーションが行われた。講師（渡邊輝男氏）、神奈川（5名）、群馬（9名）、栃木（1名）、千葉（5名）、埼玉（33名）、2日間の合計で総勢54名ほどの参加者となる。

10：30頃白毛門駐車場へ場所を移動して、それぞれの県で決められた役割にて、捜索・救助・梱包・搬出・引き揚げ・引き下げ等の訓練を行った。

1. 雪崩発生後の捜索（埼玉）

※ ビーコン（アバランチトランシーバー）とプローブを使用して埋没者の捜索。

講師の方の話によるとたいていは、1.2m くらいの位置に埋没している事が多いそう。

【感想/萱野】埋没者発見後の埋没者のビーコンをまずにオフにして、救助活動をしている側のビーコンを送信モードに切り替える等ができていないように思われた。また、2次的な遭難を防ぐ為の監視役の人が、訓練とはいえ、明後日の方向を見ている場面もあったし、あまり指示を的確にしているようには見えなかった。

探す方は必至なので、監視役がしっかりしないと捜索活動はスムーズに機能しないものだった。



2. 救護（埼玉）

※ スノーマウントを作りその中でお湯を沸かしてスノーマウント内の温度と湿度を上げる。暖かい蒸気がポイントのようだ。講師の方の話によると、人は鼻から吸った空気が鼻を通る時に温めて温度を上げて体内に取り込むからという事だ。

【感想/萱野】

今回は、スノーマウントとテントの両方を用意されていた。訓練という事もあり、両方を用意しているようだ。どちらが良いかというのは、その時の場所や気象状況よりなので、どっちが良いというのは無いらしい。臨機応変に対処する。ザックを使ったスノーマウント作りも慣れた人たちであれば、10 分くらいで完成できるようだ。半分雪洞だったり半分ツェルトだったり、色々と方法はありそうだ。今回は、埋没者が呼吸を確保された後、そのまま体は雪に埋もれたままで放置されていた。（当然、声掛けを付き添う人がしっかりとしているという前提だと思われる。）参加者の他の人の意見によっては、すぐに掘り起して手足等をマッサージしたりしたほうが雪に埋もれたままより良いという事だったが、どうやら、埋もれたままの方が、外気の影響なども受けにくく体温の急激な低下を防ぐというお話だった。ただし、埋没者の体のまわり掘って、何かで覆うという事をして避難場所の準備がきるまでの間を待機していたほうが良いそうだ。



3. 梱包（神奈川/栃木）

※ 昨年の主幹だった神奈川の人がメインで手際よく2体梱包を作った。スケッドストレッチャーを使用した。この日の梱包は内側がキチンと梱包されていた為か、スケッド側はあまりタイトに締めてはいないようだ。ロープは正しくスケッドの周囲を縫うようにセットされていた。

【感想/萱野】

色々なポイントがあるので、練習を何度もやらないと出来ないと思った。



4. 搬出・引き上げ・引き下ろし（群馬/千葉）

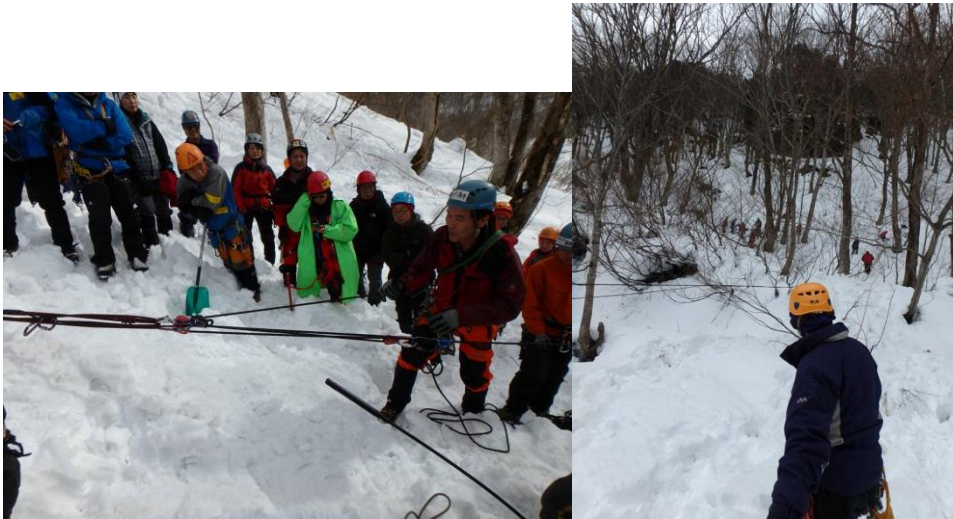
※ 群馬と千葉でそれぞれ1体ずつ引き上げと引き下げを行う。

群馬は1/3の引き上げシステムで、千葉はカウンターで引き上げを試した。

引き下ろしに関しては、エイト環等でコントロールしながら下ろした。

【感想/萱野】

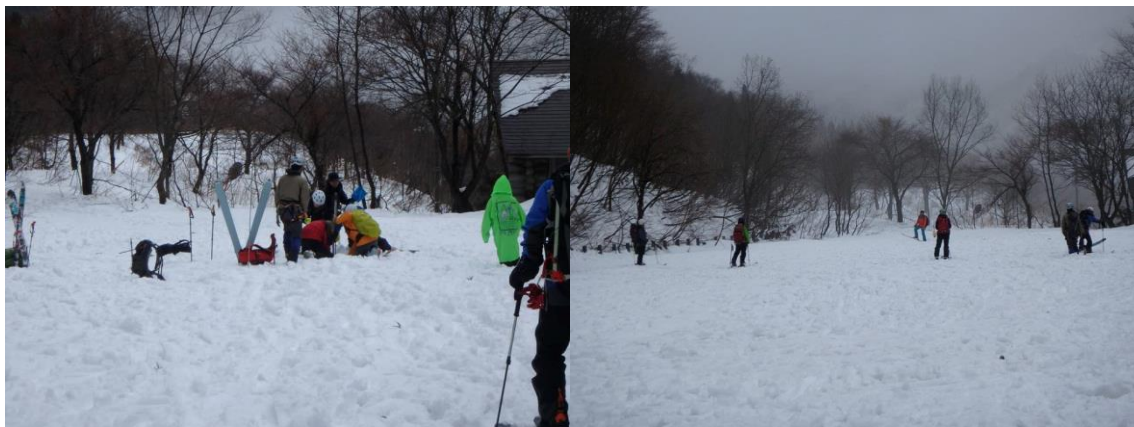
私は付き添いの役をしましたが、自分が歩くのもままならない様な斜面でスケッドを引っ張るのは大変な重労働だった。おそらく、1/3システムだったら、そこまでの力は不要だったのだろう。仮にスケッドも無ければ、人力のみで引き上げる事なんてできないような気がした。引き下ろしに関しては、ある程度の斜度があれば問題ないが、やはり最後の平らな部分の運搬に苦勞した。



その後、一連の流れ復習を行い、翌日の班分け A 班（群馬の茂木リーダー）と B 班（千葉の徳永リーダー）を決めた後、宿へ戻り、班毎に翌日の訓練の打ち合わせを 16:00 頃まで行う。その後入浴、18:00 夕飯、19:00 より各県連救助隊の活動報告・懇親会が行われた。他県のベテランの方々のお話はとても為になった。



2/14（日） 天気予報通りの朝から雨模様。隊員のテンションも下がり気味だ。雨でも訓練は行いうという事だったので、6：30 から朝食を済ませ、黙々と準備を整え、7：30 過ぎには玄関前に集合。諸々の挨拶や説明が終わり、まずは、熊谷トレッキング同人（バックカントリースキーのクラブ）の普段やられている搜索雪トレのデモンストレーションを観させてもらう為に白毛門の駐車場へ移動。



8：00 雨が降る中、熊谷トレッキング同人がスキー登高中に雪崩に遭遇し、人が雪に埋まってしまったというシチュエーションでのグループ搜索の練習を見学させて頂いた。一人埋まった場合や二人埋まった場合など。一通りのデモが終了後、実際に雪崩に遭遇した時のお話しをして頂き、質疑応答を行う。

【萱野/感想】

自分自身がビーコンを使用して山へ行った事が無いので、ビーコン搜索の訓練をした事も見たこともないので、何をやっているかは理解できましたが、自分は練習に参加するレベルの知識も何もないと思いながら見学していた。ただ、訓練中の参加者の真剣な態度が伝わってきた。実際に人が埋まっているのだという気持ちを持つての訓練は大切だと思う。実際に雪崩にあった時のお話しを聞くと雪崩が比較的起きないだろうという状況下で起き

ている事もあるのでバックカントリースキーヤーやボーダーに関係なく雪山へ入山する人のビーコンの携帯は必要なのではないかと考えさせられた。携帯するだけでいざという時に使用できなければ全くの無意味なので、訓練は特に重要だと思う。

9:30 西黒下部へ移動して、A班とB班へ別れて、捜索・救護・梱包・搬出・引き揚げ1ピッチの引き下げ2ピッチで谷川指導センターまで搬送訓練を行った。

昨日、訓練をした場所よりは斜度があつた。私は、徳永リーダーのB班へ所属して、付き添い役をした。みんなが夢中で訓練をしている間に雨も上がっていた。



【萱野/感想】

主に梱包の手伝いと引き揚げと引き下げ運搬に携わった。

搬出は栃木式でスリング+3人くらいで問題なく要救助者を移動できる方法を行った。

ヒューマンチェーンよりも効率がかなり良さそうだ。

梱包も栃木式で昨日のものとは違う、簡単で素早く梱包できた。スケッドストレッチャー内の梱包はスリング等で固定はせずにスケッド自体のバンドをかなりきつく締める事で緩みもなく、時間的に素早く梱包することができた。時間が大分節約できる。

運搬中の崩れも全くなく、救助されている人の居心地も問題なかったようだ。

(両肩の下に割と沢山のクッションとなるものを入れるのがコツだと仰っていた。)

ただ、昨日と違い、スケッドの周りをロープで縫うように取り付けていなかったのも、万が一の時にはリスクが高いと指摘もされていたようだ。強度がどれだけあるかは知らないが、そこは手抜きせずロープを周囲に通した方が安全だろうと思われた。

急斜面深雪での付き添いは、かなり難しい。自分が滑落や穴に落ちないようにするのも必至だし、要救助者への声掛けもしなくてはならない。平坦な場所での搬送は力が必要だった。あらためて、2次的な事故に遭遇しない自分自身の体力づくりや技術向上も必要だと思った。

A 班、B 班と訓練内容に若干の差があったためか、終了時間に時差があったが、
12：30 頃には土合山の家へ全員が戻り、反省報告を行い、14：00 前にはお開きになった。
その後、渋滞にもはまらず、千葉へ帰宅できた。
今回はプロの講師の方、また、各県のベテランの方々から教えて頂く事は全てが勉強になった。とても良い講習会だった。
来年も是非、参加したいと思う。